

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 アイネット・エデュケーションズ

1 事業の趣旨・目的

東京都葛飾区では、現在、ボランティアによる日本語教室が5会場8クラスで開催されている。こうした教室の継続および発展を願い、葛飾区文化施設指定管理者によって不定期ではあるが日本語指導入門講座が開講されている。

しかしながら、ボランティアの力量を高めるための学習機会は皆無に等しい。それゆえ現場では継続した日本語教育事業が求められていることから、今回募集の「ボランティアを対象とした実践的長期研修」に申し込み、現在活動しているボランティアを対象にした研修講座を開催し、多文化共生社会を担う日本語ボランティアの養成を行いたい。

なお、今回は、特に昨年度の委嘱事業「地域日本語ボランティア大学」受講者からのリクエストによる内容構成とした。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
H20/10/21 18:30~20:30	別館1階 ローズ	深谷、石黒、宮崎、林、庄司、福島、横山	①委託事業および受託団体について ②企画内容について ③講座進行について ④その他	開催経緯および各議題についての報告・説明・質疑・協議等を講師紹介を含めて行う。
H20/11/25 18:30~20:30	別館1階 カトレア	深谷、石黒、宮崎、嶋田、庄司、福島、横山	①講座終了分の反省と今後の進行について ②受講者の現状について ③その他	受講者アンケートを参照しつつ受講者の現状や最終回の講座への期待などを話し合う。
H20/12/2 18:30~20:30	別館1階 カトレア	深谷、石黒、宮崎、林、嶋田、福島、横山	①全4回講座の反省と今後の課題など ②報告書・記録誌作成について ③その他	特に今後の課題として、外国籍の子どもたちへの教科学習支援体制の整備へ向けた取り組みについて協議した。

*開催場所は、全て「かつしかシンフォニーヒルズ」

3 研修講座の内容について

- (1) 名称 ボランティア大学Ⅱ
- (2) 目標

地域で日本語活動を行うボランティアを「地域日本語ボランティア」と呼ぶ場合に、このボランティアが、地域共生の核となることが求められる。しかるに「地域日本語ボランティア」が必要とする日本語指導スキルおよび地域共生理念等について、広く先進的事例をも参考に実習も含めた多様な方法で学び、実際に活用できるようにすることを目標とする。

(3) 参加者総数 26 人

(4) 開催時間数(回数) 2.5 時間 (4 回)

(5) 参加対象者の要件

現在、葛飾区において日本語ボランティア教室に参加している者(日本語教育能力検定試験合格者を含む)。

(6) 受講者の募集方法

区内各ボランティア教室あてに事前アナウンスし、広報チラシ*完成時に配布した。

(*募集チラシ添付。)

(7) 研修会場

ア 講義 「かつしかシンフォニーヒルズ」

イ 実習 「かつしかシンフォニーヒルズ」

(8) 使用した教材・リソース

各担当講師持参のものを使用

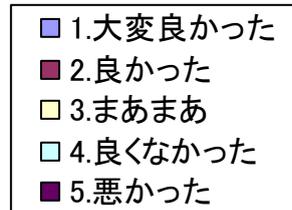
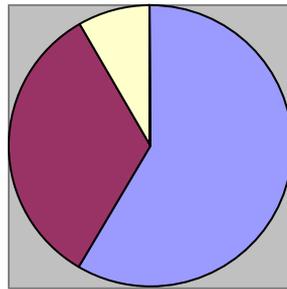
(9) 講座内容

日時	講座名/学習内容	講師	受講者数
11月4日(火) 18:30-21:00	子どもの受け入れについて (講義と実習)	樋口 万喜子 (横浜国立大学留学生センター)	17名
11月11日(火) 18:30-21:00	学習者のニーズをどう把握するか (講義と実習)	高柳 和子 (東京日本語研修所)	25名
11月18日(火) 18:30-21:00	教材の選定と使い方(講義と 実習)	春原 憲一郎 (立教大)	16名
11月30日(日) 10:00-15:00	各地の先進的事例に学ぶ (報告と質疑応答)	樋口 万喜子 (横浜国立大学留学生センター)	15名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

回	1.大変良かった	2.良かった	3.まあまあ	4.良くなかった	5.悪かった
1	7	4	1	0	0
2	6	4	2	0	0
3	8	3	0	0	0
4	5	2	0	0	0
計	26	13	3	0	0



② 実施主体からの研修内容結果評価

今回の研修講座は、4回とも経験を通した現実的なお話等が多かったこともあり、分かり易く実践にすぐ役立つ内容であった。そのため受講者評価も高かったように感じた。ただ、第2回目の内容は、少し高度な内容とともに実践編において対話型教育という成人の特性に対応した内容であり、受容度がいまいちであったように感じた。学習者の主体性重視のメソッドという点で評価に値するものとする。4回目については、広く他地域の情報を得ることで、自分たちとの比較・位置づけに有効であり、今後の活動方向を考える上でおおいに役立ったようであった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今回は学校教育部門を除き、行政と市民団体等関係者が一緒に実施・交流できたことは、ひとつの成果として評価したい。今後はこの関係性を強化しつつ、更に一歩前進させ外国人支援の輪を広げていきたい。また、そのためには教育委員会との協力・協働ができるよう努力していきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回の研修講座は、ボランティア教室が実施している種々の事業において、その主体になって活動しているボランティアの資質向上に寄与しているものとする。

② 研修後の人材活用

研修講座受講者は、そのほとんどがボランティア教室のリーダー層である。自身が参加している教室において、研修内容を生かした活動が期待される。

(12) 今後の課題

日本語の習得を必要とする子どもたち増えつつあり、その一部が成人を対象としているボランティア教室に参加してくる。この子どもたちは、日本語習得ばかりか教科学習の希望も強く、このことに対応できるボランティアの育成が急務となっている。ただ、ボランティアの数的限界をどのように克服していくかも同時に大きな課題であると認識したい。